

令和6年度厚木市総合教育会議第1回会議 会議録

- 1 日 時 令和6年8月2日（金）午前10時から11時55分まで
- 2 場 所 厚木市役所本庁舎3階 特別会議室
- 3 出席者 山口市長、佐後教育長、杉山教育長職務代理者、森委員、山本委員
- 4 事務局 企画部長、企画部次長、企画政策課長、総合計画担当課長、行政経営課長、危機管理課長、環境農政部長、環境政策課長、都市みらい部長、都市計画課長、教育部長、教育指導担当部長、教育総務課長、学務課長、学校施設課長、教育指導課長
- 5 傍聴人 なし
- 6 案 件
 - (1) 令和6年度総合教育会議について
 - (2) 防災対策について
 - ア あつぎ3Dデジタルマップについて
 - イ 厚木市における防災対策について（令和6年度主要事業）
 - ウ 厚木市熱中症特別警戒情報発表時の対応指針
 - エ 厚木市立小・中学校 熱中症対策ガイドライン
 - オ 小・中学校体育館への冷暖房設備の設置について
 - カ 市立小・中学校における地震・風水害に向けた対応について
- 7 報告事項
 - (1) 新総合計画について
 - (2) 市制70周年記念事業について
 - (3) 本庁舎跡地の活用について
- 8 会議資料 別紙のとおり
- 9 会議概要（議事進行：山口市長）
 - (1) 令和6年度総合教育会議について
今年度の総合教育会議で扱う事項等について、企画政策課長から資料1に基づき説明

【企画政策課長】

(資料 1 のとおり説明)

【各委員】

(異議なし)

【山口市長】

異議なしとして、今年度扱う事項については、資料のとおり進める。

(2) 防災対策について

防災対策に関する各部署の取組を、各課から資料 2-1 ～ 2-6 に基づき説明

【都市計画課長、危機管理課長、環境政策課長、学務課長、学校施設課長、教育総務課長、教育指導課長】

(資料 2-1 ～ 2-6 のとおり説明)

【杉山委員】

あつぎ 3D デジタルマップについては、とても良いものだと思うが、市民への広報はどのように考えるのか。ホームページに載っているだけでは、見るだけになってしまい、特に、高齢者は使いこなせないのではないかな。

また、資料に英語や横文字が多く、意味が分からず読むのに苦労した。「レイヤー（情報）」のようにカッコ書きがあればまだ良いが、「プラトー」や「デジタルトランスフォーメーション」等、調べないと意味が分からない文言が多いため、改善できないかな。

【都市計画課長】

周知については、緑のまつりや SDGs フェスティバル等の市主催イベント、各市立小学校での説明会、タウンミーティング等で周知を行っていく。

英語や横文字の表記については、理解しやすい表現にしよう努める。

【森委員】

あつぎ 3D デジタルマップについて、運用開始年月日を確認させてほしい。

【都市計画課長】

あつぎ 3D デジタルマップの公開開始日は、令和 6 年度 4 月 1 日である。

【森委員】

資料 2-2 について、「1 災害情報収集伝達システム運用事業」の金額を確認

させてほしい。資料では890万円とあるが、説明では170万円だった。

【危機管理課長】

資料2-2の予算額について、災害情報収集伝達システム運用事業費の全体予算が890万円で、そのうち、新たに導入したA I 防災危機システムの費用が170万円となっている。

【森委員】

資料2-3について、資料では「熱中症特別警戒情報」とあるが、説明では「熱中症特別警戒アラート」と聞き混乱した。同じものを指すなら、統一したほうが、分かりやすいのではないか。

【環境政策課長】

資料2-3の熱中症特別警戒情報について、確かに表記や説明の中で「情報」と「アラート」が混在していた。正しくは、「熱中症特別警戒情報」だが、「アラート」という表現が市民に馴染んでしまっているからか、テレビの報道などでも「アラート」が使われているのが現状である。

今後、どちらかに統一されていく流れがあれば、合わせていこうと思う。

【山本委員】

皆様が、防災についてよく考え取り組んでいただいていることを肌で感じる説明であった。

災害を防ぐこと、災害が起きた時に被害を最小限にすること、復旧を目指すこと、この3つが大事だと考える。

あつぎ3Dデジタルマップは、そのためにとても良い。マップを見てもらうこと自体が「災害の予防」となるので、ホームページにうまく誘導してほしい。

あつぎ3Dデジタルマップは、情報の更新が重要なのでは。更新方法を教えてほしい。

また、昨今の気候変動や、山が多い厚木の地形などから、雷の対策が必要ではないか。

【都市計画課長】

あつぎ3Dデジタルマップの更新方法に関しては、市民のニーズも配慮し更新時期を考えたい。

【都市みらい部長】

土砂災害警戒区域指定などの新たに区域指定されることがあれば、随時データに反映させていくことになっている。

【都市計画課長】

雷に関しては、気象庁の予測精度も上がっているが、直近でないと予測できない状況である。将来的には、あつぎ3Dデジタルマップに気象予報も組み込むことも考えていきたい。

【山本委員】

熱中症対策に関して、昔ハワイ大学に行ったとき、トイレ内にピーチャート（＝尿の色を表した図）が掲示されていた。尿の色は体調のバロメーターとなり、汗をかきすぎていると濃くなる等、熱中症の判断材料になる。子どもが自分で熱中症を防ぐための仕掛けとして、小・中学校や公共施設のトイレに貼ってあると良いのではないか。

【学務課長】

ピーチャートの掲示を検討していく。

【山本委員】

ピーチャートに関しては、厚木市が進めている「スポーツの聖地づくり」としての取組にもなる。是非こういった事例を取り入れてほしい。

【杉山委員】

資料2-2、「4 防災備蓄品整備事業」について、乳児のミルクと避難者のプライバシーを守るテントはあるか。

【危機管理課長】

テントの配備について、現在20張あるが、20張では足りない。神奈川県がテントを購入し、市町村への配布を予定しており、6,000張を提供していただく予定である。

【山本委員】

資料2-4 4ページに「暑さ指数（WBGT）の計測」と記載があるが、暑さ指数を測るための機械が学校にあるのか。

【学務課長】

暑さ指数を測るための機械について、令和2年度、令和5年度に暑さ指数（WBGT）計を各学校に1セットずつ配布した。

【山本委員】

資料2-4 8ページに「学校薬剤師の助言を得て」と記載があるが、内科医などの専門職ではなく薬剤師としているのはなぜか。

【学務課長】

学校薬剤師は、環境衛生の役割を担っているため、そのための記載である。

【森委員】

資料2-4 6ページ、熱中症警戒アラートが発表された時の対応例に「朝8時に計測」と記載があるが、誰が行うのか。また、計測した数値はどのように周知するのか。

【学務課長】

8時の計測は管理職が行い、授業の対応については、各教員が行う。また、必要に応じ、保護者にメール等で対応を周知している。

【佐後教育長】

あつぎ3Dデジタルマップは、自分に関係する地域がどのような状態にあるか認識しやすく、防災対策として可能性が大きい。

全児童に配布している学習用端末で、あつぎ3Dデジタルマップを見るなど、授業への導入を促すため校長会で紹介していきたい。子どもたちに使い方を覚えてもらい、家に帰って家族に教えてもらうことも、周知として効果が出るのではないか。

ヒヤリハットのマップがあることを知らなかった。子どもたちが、通学路上の危険箇所を記した地図を作成しているので、その取組にも活用していきたい。

あつぎ3Dデジタルマップは、ホームページ上の操作が分かりにくい。市民が直感的に操作できるようなレイアウトを検討していただきたい。

暑さ対策について、学務課から説明があったようにガイドラインを作成しており、暑さ指数(WBGT)は特に活用されている。数値に応じ、基準値を超えたらベランダに赤い旗を掲出するなど、周知方法も浸透してきている。

熱中症特別警戒情報の発表条件は、翌日の最高暑さ指数が情報提供地点5地点全てにおいて35を超えることとなっており、ハードルの高いものであるが、発表に至らなくとも暑さ指数が35を超えている地点は危険であることに変わりない。これをどのように考えるのか。

また、情報提供地点5地点のうち、海老名市が暑さ指数35を超えることが多いということだが、厚木はどうか。

【環境政策課長】

暑さ指数については、観測場所の環境により大幅に変動する。湿度や日陰の有

無、風の強さ等により刻々と動いていく。

厚木は海沿いではないので、海老名に近い値が出ると予想しているが、やはり観測場所により変動するため、一概に傾向を断言できない。各学校で取り組んでいるように、その場その場で計測するのが確実ではないかと考える。

熱中症特別警戒情報は過渡期で、現在は「出づらい」ようになっているのが実情であり、今後、発表条件が変わる可能性もあるため動向に注視していく。

【山口市長】

それぞれの御意見を受け止めながら取り組んでいく。「備えあれば憂いなし」の精神で、子どもたちを暑さから守ると同時に、暑さに慣れていくことも頭の片隅に入れておきたい。

(3) 新総合計画について

【総合計画担当課長】

(資料3に基づき説明)

【森委員】

あつぎ未来創造プロジェクトは中学生以上が対象だが、中学・高校生によるワークショップを別枠として大人と切り分けたのはなぜか。

【総合計画担当課長】

未来創造プロジェクトは、無作為抽出の市民を対象としており、幅広い世代に検討いただくため、中学生以上に通知する。

中学・高校生のワークショップは、若者の意見を聴くために開催するもので、関係機関に参加の依頼等を行う予定である。

あつぎ女性100人プロジェクトは、中学生以上の女性を対象に無作為抽出で募集する。

【山本委員】

小、中、高、大と各学校が揃っている地域はあまり無い。厚木は、下宿している大学生が多くいるのでは。中高生だけでなく、大学生の意見を吸い上げる機会があると良いと思う。

【総合計画担当課長】

資料3は、主なワークショップの開催予定を記載しており、大学生については、現在、市でインターンシップの受入れを行っているので、終了後、市の職業体験で感じたことなどを踏まえたワークショップの開催を予定している。

(4) 市制70周年記念事業について

【企画政策課長】

(資料4に基づき説明)

【杉山委員】

映画製作は、令和7年2月1日までに間に合うのか。

【企画政策課長】

令和7年2月1日までに完成させるのではなく、70周年記念事業期間に厚木市内で撮影をするものであり、令和7年1月31日までにショートフィルムが完成する予定である。

【山口市長】

70周年記念事業期間の1年間で、市民の皆様を巻き込み撮影していく。70周年は大きな節目である。皆様の力添えをお願いしたい。

(5) 本庁舎跡地の活用について

【行政経営課長】

(資料5に基づき説明)

【各委員】

(意見なし)

【山口市長】

市民アンケートなどで様々な意見をいただいたところであり、御意見を踏まえながら、検討していく。

【山口市長】

それでは、案件が全て終了したため、進行を事務局に返す。

【事務局】

これをもって第1回会議を終了する。

以上